

## 2019 年度賃金引き上げ妥結に関する中央本部見解

19 春闘勝利に向け、最後まで中央本部と共に職場から創造的なたたかいをつくり出していただいた全組合員とそれを支えていただいたご家族に感謝を申し上げます。

中央本部は、本日、申 15 号「2019 年度賃金引き上げ等に関する申し入れ」第 3 回団体交渉で、本社より、①定期昇給の実施（昇給係数 4）②基本給へ所定昇給額の 6 分の 1 を加算。主務職以上及び T 等級以上の社員には 100 円（M 及び S 等級は 200 円）加算③グリーンスタッフ社員の基本賃金に 500 円加算④エルダー社員の基本賃金に 500 円加算との回答を受けた。団体交渉で示された会社の回答は、J R 東労組の要求からは大きく乖離したものであった。そのため、回答された内容を一旦持ち帰り、全地本委員長会議を経て判断し、J R 東労組の組織現実をトータル的に踏まえて、13 時 30 分に下した苦渋の決断が「妥結」である。

今春闘はかつてない厳しい労使議論に直面した。何故このような現実が生み出されているかについて捉え返さなければならない。現実には 18 春闘の過程で多くの組合員がたたかいからの離脱を余儀なくされ、組織の力量にも多大な影響を及ぼしている。

現在、J R 東労組は第一組合である。しかし、労使関係は保ちつつも国鉄改革以降、諸先輩が築き上げてきた責任組合としての役割を十分に発揮するに至っていない。なぜならば、18 春闘の過程で労使共同宣言失効を引き出してしまった反省に立ち、これまでの基本であった「労使間の話し合いにおいて自主解決を図る」という信頼関係の再構築の最中にあるからだ。

J R 東労組は、12 地本の総団結を目指したたたかいを展開しているが、組織的課題を乗り越えていくことに時間を要している。私たちを取り巻く視線が、「本物の団結」に注がれているのだ。

19 春闘におけるたたかいの成果は、昨年の純ベア平均 748 円を上回り、平均 1,050 円の回答を引き出したこと。グリーンスタッフ、エルダー組合員の賃金改定という待遇改善を勝ち取ったこと。昇級係数 4 の定期昇給を勝ち取ったことである。

しかし、一律 6,000 円の引き上げという「大幅賃上げ」、第二基本給凍結、企画業務を担う組合員の待遇改善には課題を残してしまった。

厳しい労使議論のもとで勝ち取った成果を確認し、将来に展望を切り拓いていくためにも、職場の組合員の声を原点に、さらに組織の求心力を高めていこう。

春闘の三大要素は「世間相場」「支払能力」「組織力」である。労働組合が同時期に要求を掲げ、相乗効果で経営側に賃上げを求めるというたたかい方・形が変更され、春闘の終焉とも言える状況にある中、20 春闘においても情勢の厳しさは増していくであろう。

今私たちの最大の課題は、「組織力」を再生させるための組織強化・拡大と 12 地本の総団結である。今後も矢継ぎ早に示されるであろう施策に立ち向かうには「J R 東労組」が必要であり、その「組織力」の強化をもとに団体交渉等で要求の実現を目指していく。

19 春闘のたたかいの経過と結果を全組合員で振り返り、未来を展望する議論を展開しよう！そして悔しさをバネに、組織の存亡をかけ、組織強化・拡大に向け全組合員が決起しようではないか！

中央本部はその最先頭で奮闘することを述べ、見解とする。

2019 年 3 月 15 日  
東日本旅客鉄道労働組合  
中央執行委員会